

# 人と野生鳥獣は共存できる？

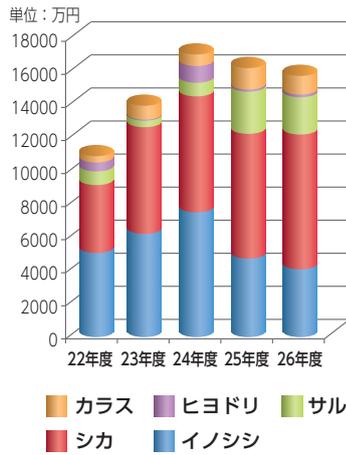
## ～鳥獣との関わりを考える～

近年、シカやイノシシなど鳥獣の急速な生息数増加や生息地の拡大が起きており、希少な植物の食害などの生態系への影響や、農林水産業・生活環境への被害が大変深刻な状況となっています。しかし、野生鳥獣にとつては、山や森を切り開き、すみかを荒らしている人間こそやっかいな存在です。人間と野生鳥獣がお互いの生活を脅かすことがないようにするためにはどうすればいいか、その答えは一朝一夕に出るものではありませんが、日頃から考えておくことは大切です。今回は、私たちが今すぐにも取り組めることを紹介します。

**被害総額  
約1億6000万円！**

下関市では、平成26年度の有害鳥獣による被害額が約1億6000万円に上っており、農家の方にとつても切実な問題となっています。

一方で、鳥獣捕獲に中心的な役割を果たしてきた狩猟者も昭和51年のピーク時に比べ3分の1以下に減少しているとともに高齢化しており、捕獲の担い手の育成や確保が課題となっています。



### 農業被害を減らすための対策を！

**知らないうちに餌付けしている？**

野生鳥獣にとつては、捨てられている野菜や果実、畑の側にある樹木になっている果実や落ちている果実なども栄養価の高い魅力的な餌となります。

売りに物にならない農作物を畑の隅などに放置せず、きちんと処分し、果樹の実は適切に収穫しましょう。



### やっぱり柵は有効

物理的に野生鳥獣の侵入を防ぐために柵を設置し、田畑を囲うことは、侵入防止に有効です。

柵を設置する際には、隙間を作らないようにすると同時に、作物を見えにくくする工夫も有効です。

### 雑草が隠れみのに？

雑草が生い茂っている場所ではイノシシが隠れることができ、警戒心が薄れるため、人に近づく可能性があります。侵入防止柵を作ってもその周囲が雑草で覆われている場合、せっかく設置した柵もイノシシが時間をたっぷりかけて壊してしまうことになります。

イノシシの行動の拠点になってしまう耕作放棄地を作らないこと、周囲の草刈りを小まめに行うことなども、重要な対策の一つです。

### 「犬猿の仲」を利用した取り組み

豊北地区を中心に、サルの追い払い活動を行う犬「モンキードッグ」が活躍しています。

市では、全国各地でも効果を上げていく「モンキードッグ」を養成する取り組みを行っています。

警察犬訓練所などの訓練資格を有する訓練士の指導を受けながら、飼い主が1〜6歳の犬とトレーニングを繰り返して、呼び戻しなどの指示や人に危害を加えないことを覚え込ませます。モンキードッグとして認定された犬は、地域への周知などの手続きを経てから追い払い活動を行います。



## 登山やハイキングでも 注意が必要

### 白いタオルを持って歩くと シカの「お尻」に見える？

白いタオルや手ぬぐいを腰にぶら下げて歩くと、狩猟者からシカと誤認され、撃たれてしまう危険性があります。

登山やハイキング、山菜取りなどで山に入る場合は迷彩色などの見えにくい服装は控え、オレンジ色や黄色の帽子、ベスト、タオルを着用するなど、できるだけ目立つ服装を心掛けてください。



### 「鶴の恩返し」

#### 本当はありがた迷惑？

人を恐れている野生鳥獣にとって人と接することは大きなストレスです。

傷ついた動物や、巣から落ちてしまった鳥のひなを助けたいという気持ちはとても大切ですが、人が野生鳥獣を自然の中で自立していけるように育てることは難しく、野生鳥獣の生死は生態系の中で生じる自然なことです。

野生鳥獣が人にも感染する病気を持っていることもあるので、お互いに接触することは好ましいことではありません。

## 突然イノシシと 出会ってしまったときは？

普段はイノシシの方から逃げるので、慌てる必要はありませんが、イノシシが興奮していたり、発情期(晩秋から冬)や分娩後で攻撃的になっていたり、至近距離で出会った場合は注意が必要です。

石を投げたり、棒を振り上げて威嚇したり、走って逃げるとイノシシを興奮させてしまうので、背中を見せないよう、ゆっくり後ずさりして静かにその場を離れるようにしましょう。

### サルとは目を合わせない！

サルと目を合わせると、威嚇のために襲ってくる場合があります。見掛けたら、ゆっくりその場を離れましょう。

食べ物を与えるところに居ついてしまいます。餌になりそうなものを屋外に放置しないこと、生ごみは出す時間を守ることも重要です。子どもには、食べ物を持ったまま外で遊ばせないようにしましょう。

## 市街地でびびるイノシシ

### カラスにとって

### 「ごみステーション」は餌場

ごみステーションを荒らすカラスも、ビニール袋を破って散らかすことを目的としているわけではありません。生きる



ために餌を探し、食べているだけです。

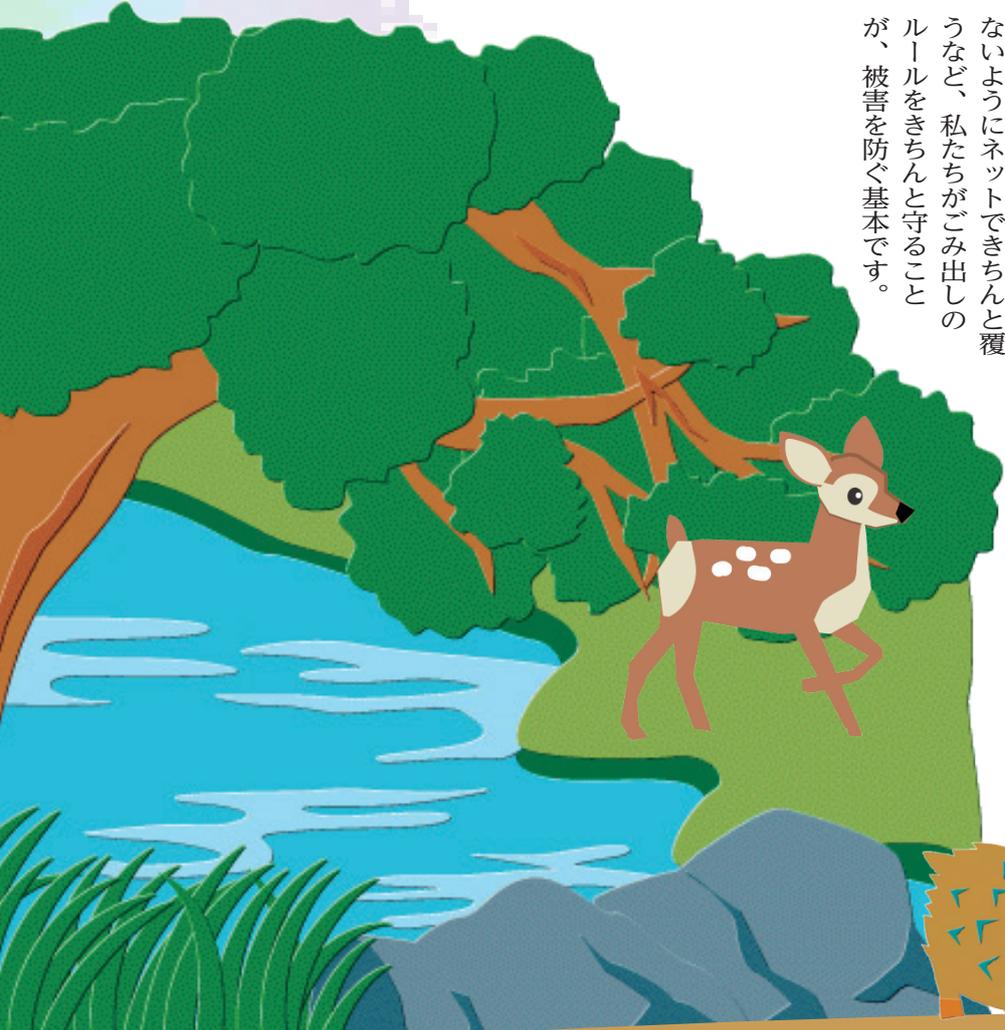
カラスは、色彩感覚が優れています。ごみ袋の中に餌になるものがあるかどうか目で判別しているため、生ごみを新聞などにくるんで見えないようにすることも有効な対策です。

もちろん、ごみをネットや籠で覆って、物理的に突くのを防ぐことが最も有効な対策です。環境部(白屋町一丁目)では、当面の対策として漁網の再利用によるネットの無料配布を行っています。

決められた曜日、時間に出す、はみ出さないようにネットできちんと覆うなど、私たちがごみ出しのルールをきちんと守ることが、被害を防ぐ基本です。

## うり坊はかわいいけど…

うり坊(イノシシの子ども)はかわいいので、つい近づきたくなりますが、近くに母親がいる可能性が高く、危険です。食べ物を与えることは、人への警戒心を低下させ、人が食べ物の供給源だと学習させることになってしまうので、食べ物を与えないでください。





自然との  
バランスのために  
下関市の取り組み

下関市では、平成26年4月に「第3次下関市鳥獣被害防止計画」を定めました。有害獣駆除活動のための人員を確保し、負担を軽減するため、狩猟免許保有者で構成される下関市鳥獣被害対策実施隊を設置するなど、鳥獣被害の防止施策を総合的かつ効果的に実施しています。

あわせて、有害鳥獣対策に関して以下の補助制度も設けています。

侵入防止柵 設置助成	農林業を営む方がイノシシ・シカなどによる農林作物被害を防止するため、侵入防止柵を設置する際の費用を助成します。 ※要件を満たす必要があります
モンキードッグ 養成訓練	サルを追い払い農作物被害を防ぐために、「モンキードッグ」養成訓練を実施しています。訓練費は無料です。
新規狩猟免許 取得に係る助成	狩猟免許取得にかかる費用の一部を県・市が助成します。

☎農林整備課 (☎231-1262)

ジビエセンターで有効活用♪



「みりの丘ジビエセンター」では、捕獲したイノシシやシカをジビエ捕獲された野生鳥獣の肉として有効活用することにより、捕獲意欲向上や地域資源としての魅力化を図り、農作物などの被害を軽減するための取り組みを行っています。

市内では、「豊田農業公園みりの丘」の特産品販売所や道の駅などでジビエが販売されています。



長州ジビエがプロの技でごちそうに!

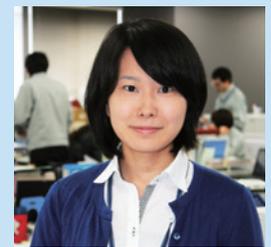


東京第一ホテル下関  
料理長 山内昭男氏(左)  
副料理長 雌熊豊氏(右)

東京第一ホテル下関では、ジビエセンターで処理された新鮮なジビエを利用し、皆さんにおいしく食べていただきたいという気持ちを込めた料理を提供しています。

野生動物の肉はしっかりと火を通す必要があることに加え、脂肪が少ないことから、ジューシーさを感じていただけるための工夫をしています。また、ジビエ独特の臭いを和らげるため、香辛料を使うこともよくあります。洋食ではニンニクやローズマリーなどのハーブ、和食ではみそ、たかのつめ、しょうがが定番ですが、有馬山椒もよく合います。場合によってはあえて香辛料を使わないことにより、豊かな風味を楽しむことができます。

価格が下がり、供給が安定すればさらに多くの皆さんにおいしく食べていただけたらと思います。高たんぱく・低脂肪で栄養豊富、ダイエットにも効果があるジビエ料理をぜひご賞味ください。



保健部生活衛生課  
栄養士 小山祐紀子

ジビエは、以前は主に一部の猟師さんの間で食べられるだけでしたが、最近では道の駅などで販売されるようになり、誰でも手に入れることができるようになりました。

シカ肉は「もみじ」、イノシシ肉は「ぼたん」「山ぐら」などと呼ばれ、一般的な牛肉や豚肉に比べ鉄分などの栄養素も豊富に含まれています。

一方で、生や加熱不十分なジビエを食べると、豚肉と同様にE型肝炎や腸管出血性大腸菌による食中毒などのリスクがあります。家庭で調理する際は中心部まで火が通るようしっかりと加熱して食べましょう。

生活衛生課ではジビエの解体処理施設や加工施設などに定期的立ち入り、安心してジビエ料理が楽しめるよう監視指導を行っています。

皆さんも一度、自然の味覚を味わってみてはいかがでしょうか？